

20 住 建 第 284 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

住田町長 多 田 欣 一



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付、国道企第 37 号で依頼のありました標記について、
別紙のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

道路は、住民生活の向上と経済社会の活力の保持を図る上で最も基本となる社会基盤であり、活力ある地域社会の形成、豊かさとりある社会を実現するためには、道路の整備を緊急かつ計画的に推進することが必要なことから、次の事項を実現されるよう提言します。

記

- 1 道路特定財源を一般財源化にする場合、一般財源の特別枠を設け、道路整備の遅れている地域の地域高規格道路及び一般国道の整備促進を図ること。
- 2 地域格差の解消を図るためにも、優先的に過疎地域へ高速化に対応した道路整備の促進のための予算を配分すること。
- 3 地震や豪雨等による自然災害にも強い道路を維持するためには、日頃からの維持補修業務が重要であるが、年々、道路維持修繕費用が膨大となり、財源の乏しい自治体には大変な負担となっているので、維持補修業務に新たな補助制度を設けること。
- 4 利用者の利便性及び経済社会の活力の向上を図るためには、高規格幹線道路へのアクセス道路の整備促進が急務となっていることから、短期間でアクセス道路の整備の促進が図られるよう法的措置を講じること。
- 5 道路の整備にあたっては、周囲の景観と融合した景観形成に努めていくとともに、憩いの場の設定にも配慮した道づくりを進めること。
- 6 地方道路整備臨時交付金制度及び地方道路整備臨時貸付金制度の継続はもちろんのこと、事業費の大幅な拡充を図ること。

②-1 地域の現状と抱える課題

岩手県住田町

○現状

本町は、岩手県の東南部に位置し、その四方を標高 600～1,300m の山々に囲まれ、総面積の約 90%が峻険な山地で占められている典型的山村です。人口は、昭和 30 年の約 13,000 人をピークに減少の一途をたどり、50 年間で約半数に減少しました。交通条件としては、内陸と沿岸を結ぶ一般国道 4 路線、一般県道 4 路線あるが、周囲を山々に囲まれた本町においては、近隣市町への通行は全て峠越えしなければならず、特に冬期間の通行には危険が伴います。高規格幹線道路としての東北自動車道、東北新幹線、花巻空港等に接続する一般国道 4 路線の改良工事が継続実施され、整備が進んでいるが本町へ連絡するアクセス道が十分でなく、早期の整備と供用開始が切望されています。

○課題

周囲を山々に囲まれた本町においては、住民の日常生活や地域の産業経済活動の基盤を確保するためにも、国・県道の改良整備の促進が急務となっています。特に、東北自動車道、東北新幹線、花巻空港等へのアクセス時間の短縮を図ることが喫緊の課題となっています。本町は、過疎、少子高齢化の進行により、基幹産業である農林業においては、後継者不足が深刻化しており、地域経済が著しく低迷しています。しかしながら、県内においては、自動車関連産業の増産体制や関連インフラの整備の促進が進んでおり、技術集積の展開地として本町までのエリア拡大、企業誘致の促進を進めながら地域経済の活性化を図るためにも、国道等幹線道路の早期の整備、とりわけ地域高規格道路の整備の促進、高規格道路へのアクセス道の早期な整備の促進を切に願うものであります。

②-2 地域の目指すべき将来像

岩手県住田町

本町の人口は、昭和 30 年の 13,121 人をピークに、以後減少を続け、この 50 年間で約 48%の減少率となっています。高齢化率も平成 17 年には 36.5%となり、県内の上位に位置しています。この間、本町は昭和 55 年に「過疎地域振興特別措置法」に基づく過疎地域に指定され、その対策を講じてきたところであるが、人口の減少や高齢化の進展に歯止めがかかっていないのが現状であります。本町は、平成 19 年度からの新総合計画を策定し、「産み」「育て」「守る」を基本に、産業振興と安定的な雇用拡大、交通基盤の整備、住民生活の安定と福祉の向上、移住・交流の促進、集落維持・活性化に取り組みながら自然と生産の調和のとれた循環型の町づくりを目指しています。また、自然と一体となった農林業を主幹産業に、独自の集約的複合経営の「住田型農業」を実践し、生産、流通、加工、さらに住宅生産・販売に至る一連の林業循環型システムを構築し、現在は林業を軸とした「森林・林業日本一の町」をめざして施策を展開しています。これらの町づくりのためには、国・県の支援による早期な国・県道の整備促進、地域高規格道路の整備の促進が必要不可欠であります。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岩手県住田町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域経済の活性化	・国道 283 号仙人峠道路「滝観洞 I C」へのアクセス道整備 ・国道 397 号の早期整備の促進	・国道 283 号仙人峠道路「滝観洞 I C」が、国の支援のもと平成 20 年 3 月 16 日開通しました。これにより、全国に誇る観光資源である「滝観洞」へ 2 分でアクセス可能となり、観光や産業振興などの地域活性化をはじめ、地域医療の支援、災害時の迂回路確保などの日常生活支援等、さまざまな効果が表れ、地元の住民から大変喜ばれているばかりでなく、滝観洞への入洞数が例年の 2 倍以上に増加し、地域経済に多大に貢献しています。今後は、I C へのアクセス道の整備の促進が急務となっていますが、観光や産業振興などへの波及等大幅な効果が期待されています。 ・国道 397 号は、新・全国総合開発計画における「北東北地域連携軸」構想の重要路線としての位置づけが期待され、国際港湾を控える県沿岸南部と内陸部の中核工業団地を結ぶ産業道路であり、県内陸部の高速交通網に接続する幹線道路であります。本路線の整備を促進することは、地域連携、交流の促進による自立的な社会の形成を促し、地域間格差を是正し県勢の飛躍的發展や物流の活発化と国際化を推進するものであります。とりわけ本町においては、重要アクセス道路及び産業路線としての機能を更に向上させるためにも、より一層の早期に整備促進されますよう切に願います。	